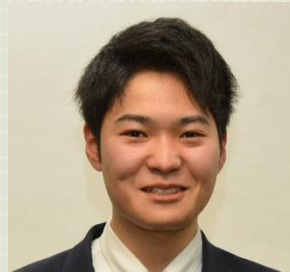


ちば なると  
五所川原第一高等学校 千葉 成人



まず、今回の研修に選抜していただいた皆様には感謝の気持ちを言葉では言い尽くせません。そして、研修を共にした関係者の皆様やチームにも感謝致しております。

今思い返すと、希望理由書が始まりでした。私は元々物理や化学といったエネルギーについて学ぶことが好きでした。そこに担任の先生からのお誘いがあり、今回の研修に応募させていただきました。希望理由書を書くにあたり、私の参加したい思いや自己アピールといったことを全力で書かせていただきました。結果が分かった時、6人の名前の中に私がいたことは目を疑うものでした。

第一回事前研修会。自己紹介や青森紹介の課題作成をし、挑みました。1日目、初めてチームの皆さんと顔合わせをしました。最初ということもあり、とても緊張していたことを今でも覚えています。そこで私は、コミュニケーションをとることに専念しました。研修が開始され、自己紹介などの発表の際、他の5人の内容に驚きました。私の順番がきたとき、はっきりと発音し相手に伝えると強く念じ発表しました。青森紹介のチームに分かれ内容確認の時、初めて白夢さん以外のチームのみんなと会話をしました。

2日目に、東北電力(株)東通原子力発電所と日本原燃(株)原子燃料サイクル施設を視察しました。実際に間近で見ると、いろいろな知識が入ってくるとともに少しの恐怖を感じました。原子力発電所では、原子炉建屋に入ると一生に一度の体験をさせていただきました。私が特に印象に残っているのはタービンの大きさについてです。実際に見るとタービンと発電機の大きさは予想を超えるものでした。そこで、私が疑問に思ったのは、タービンを回した蒸気の行き先です。復水器という設備で約3万本の細管に海水が流れており、効率よく蒸気を冷やして水にし、原子炉に戻していることがわかり納得しました。原子燃料サイクル施設では、実際に使用済み燃料が冷水プールに入っているのをガラス越しに見学しました。放射線は水が2メートルあれば遮断でき、それ以上の高さをとっていることを聞き安心しました。

第一回事前研修会により、少しの自信と原子力発電、放射性物質について知識を得ることができました。

第二回事前研修会。自己紹介の修正、チームで取り組んだ青森紹介のプレゼンテーションを持ち挑みました。久々に会ったチームのみんなとは前回よりもコミュニケーションがとれ、活発に活動できたことが嬉しく思い自信へと繋がりました。1日目は、修正後初めてのプレゼンテーションでした。まだ、緊張があり話している内容とパワーポイントが合っていませんでした。その後、アドバイザーの先輩方の的確なアドバイスで、より良いものへ変化していきました。夕食会での先輩方とのコミュニケーションはとても楽しく、ためになるものでした。現地に行ったとき、何を気を付けるべきなのか、今回の研修を活かした進学についてなど様々な知識を持つことができました。2日目は、前日の修正があった部分を直し、自信を持って

挑みました。修正後の内容は読んでいる私も理解しやすいものとなっており、自信を持って発表することができました。修正をしていただいた文章を読み、まだまだ英語力が足りていないと実感しました。3日目は、東北放射線科学センターから放射線についての講座と実験がありました。霧箱を用いた放射線飛跡の観察、「ウィルソンの霧箱」という実験では、実際に放射線を見ることができました。私は、放射線が空気中を通り抜けた後にできる白い霧が何かという疑問を抱きました。ご説明を受けると、飛跡に沿ってたくさんのイオンができ、その周りにアルコールの蒸気がいっせいに集まり、アルコールの小さなしずくが作られるということがわかりました。第一回、第二回事前研修会を通して、関係者の皆様の的確なアドバイスに助けられました。また、エネルギーへの関心も高まり、本番への強い気持ちや自信を得ることができました。

数々の不安もありながら挑んだ研修本番。最初はスウェーデン、フランスの両国大使館の表敬訪問でした。スウェーデン大使館では、初めての訪問ということもあり、とても緊張しました。最初は竜啓介氏より、スウェーデンおよび両国のエネルギー事情をご説明いただきました。その中でも、スウェーデンでは、時間帯でごみの分別をしておりパイプラインを使用し、生ごみを回収しエネルギーへと変換するというユニークな政策を知り、日本にも活かしたいと感じました。フランス大使館は、スウェーデン大使館とは異なり厳重な警備体制であり、違った違和感がありました。スウェーデン大使館と同様にエネルギー事情のご説明がありました。公使からのお話の中で電気を知らない国だってあると聞き、私は今あるエネルギーは当たり前ではないと改めて感じました。両大使館で、私なりの意思を示すことができたと思います。

翌日の人生初の長時間フライトはとても不安でした。無事ストックホルムまで到着したときは安心しました。スウェーデン3日目のストックホルムの市内見学は、とても楽しく様々な知識を得ることができました。市庁舎では、施設内を見学しました。中でも議会を一般の方々が傍聴できるシステムはとても素晴らしく、安心できるものだと感じました。ヴァーサ博物館では、ヴァーサ号のあまりの大きさに驚きを感じました。1628年に沈没した船を333年後に引き上げたということは、私には考えることができないようなことでした。4日目、初めてのフォルシュマルク技術高校への訪問でした。最初はなかなか積極的に話すことができませんでした。しかし、昼食では、積極的にコミュニケーションを取り学校の規則や歴史などの知識を得ることができました。次に、フォルシュマルク中・低レベル廃棄物貯蔵所へ見学に行きました。そこではバスを乗り換え、洞窟のようなところに入っていました。その中は、中・低レベルの廃棄物の貯蔵所となっており、とても広大な規模でした。3年後には拡大を考えているという説明に、環境への影響は大丈夫なのかと質問をしたところ、予想外の返答でした。「確かに影響はあるが最小限に抑えて

いる。なによりもデメリットを受けるよりも大きなメリットを考えてほしい。」これにより、私の今までの考えを見直すことができました。私は日本全体でこのような考え方ができれば、現状より良くなると思いました。5日目は、カテドラル高校でのプレゼンテーションがありました。私は自己紹介の際に思いきってやろうと決意しました。その後は自信がつき、青森県の紹介、エネルギー問題のプレゼンテーションを無事行うことができました。当日私が一番楽しみにしていたのは、現地の高校生とのディスカッションでした。私が考える両国のエネルギーについてしっかりと発言できました。

その後、フランスに入国し、7日目は、モンサンミッシェル見学でした。モンサンミッシェルは上空から見ると十字架になっていて、内部からはいくつもの建物で支えられて出来ていました。8日目は、オラノ社 ラ・アーク再処理施設見学でした。私は日本の原子燃料サイクル施設とは違った点を感じられました。例えば、使用済み燃料を冷却水のプールに移す作業を日本では水中で行っていますが、オラノ社では空気中で行っていました。厚さ1.2メートルのコンクリートの壁により、今までは人体に影響は出ていないとのことでした。私は技術力に関しては日本も負けていないと感じました。9日目は、グリニャール高校での交流でした。そこで行われたディスカッションでは白熱したものになりました。その中には、なぜこの研修に参加したのかという質問がありました。少し戸惑いましたが「授業では習うことのできないことを実際にふれあいながら学べるから」という気持ちを伝えることができました。

今回の全体研修を通し、エネルギーの目標であった、自分なりの答えを出すことができました。また、スウェーデンやフランスで見学したりディスカッションをして、技術や知識は両国に負けないと感じました。私は今、日本に必要なのは技術経営力だと考えました。地震大国の日本ではいくら技術があってもそれを経営する能力（安全に対する意識、コスト、環境等に関するバランスの能力）がないと、また大きな被害が起きてしまうかもしれません。これを防ぐためにも、もっと教育でエネルギーを取り上げてみてはどうでしょうか。私は教師を目指しているため、この知識を後進にも伝えられるように日々学問に励もうと思います。



